

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093000042		
法人名	医療法人 せいわ会		
事業所名	グループホーム おもやい (西棟・東棟)		
所在地	〒818-0032 福岡県筑紫野市大字西小田991番地1 TEL092-919-7371		
自己評価作成日	平成23年9月10日	評価結果確定日	平成23年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りを田畑に囲まれたとてもどかな環境の中に立つ事業所で、理念に掲げている、生き生き・のびのび・自分らしくを基に、利用者の方一人ひとりが生甲斐を感じて頂けるような支援を心掛けています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成 23年11月04日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境に恵まれ、日ごとに秋の気配を感じる田園地帯の中に、複合型福祉施設併設の2ユニット平屋建てグループホーム「おもやい」がある。「一つの物を仲良く共有し合うこと」という意味からホーム名を「おもやい」に決め、利用者一人ひとりが自分らしく、生き生きと、のびのび暮らせるように、管理者と職員は、利用者と同じ目線に立って、気配りのある介護サービスに取り組んでいる。母体が医療法人で、24時間365日の医療連携体制と、老健施設が持つノウハウを活かし、自立支援のための取り組みは、家族の厚い信頼に繋がりが、家族全員が協力的に、アンケートに答えている。また、運営推進会議を、地域連携の柱として、地域行事参加や、災害避難訓練に、地域代表として参加してもらう等、開設4年目を迎え、地域との交流も始まっているグループホーム「おもやい」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員、理念を常に意識し業務に取り組んでいる。	一つのことを仲良く共有しあうこと、お互いに協力し、暮らしていくという「おもやい精神」で、生き生き、のびのび、利用者一人ひとりの暮らしを支えるための理念を職員は、常に意識し、介護に対する取り組みを考え、実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のスーパー等への買い物や地域の行事等への参加、又逆に事業所の行事等に地域のボランティアの方々にも参加して頂いている。	利用者と職員は、地域の夏祭りやフリーマーケット等、地域行事に参加し、近隣住民と会話をしたり、地域の一員として交流を図っている。また、中学生の体験学習や介護実習生や、ボランティアの受け入れ等、開かれたホームを目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所見学に来られた方への説明を行っている。又、地域の学生の実習受け入れを積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度定期的に開催し、現状報告を行った後、意見交換を行いサービス向上に活かすように努めている。	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催され、利用者、家族、区長、民生委員、地域包括支援センター職員の参加がある。委員からは、活発な意見が出され、また、会議時に避難訓練を実施する等、充実した会議になっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括の方に入って頂き情報交換を行ったりアドバイスを頂いている。又、不明な点などあれば、直ぐに市の担当者に相談している。	運営推進会議に、行政職員や地域包括支援センター職員が参加し、ホームの現状を理解した上で、アドバイスをもらうなど、行政との連携が始まっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についての研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人全体で取り組む身体拘束委員会による研修等で、拘束をしないための意思統一を図り、全職員が理解し、利用者の安全で安心の暮らしを支援している。また、玄関の鍵は日中はかけていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を行い、理解し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加し、理解し、いつでも活用できるようにしている。	現在、制度利用の該当者はいないが、制度の資料やパンフレットを用意している。研修を受講し、職員は、権利擁護委に関する制度について周知し、利用者や家族が必要な時に、いつでも活用できる体制がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または、改定などの際は、十分に説明し納得して頂き、同意を得たサービスの提供を図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望は気軽に話して頂けるように配慮し、又、頂いた意見、要望等はできるだけ反映されるように努めている。	家族が順番で運営推進会議に参加し、意見、要望を出し、意見箱や、苦情受付窓口の設置、家族面会時等に聞き取り、ホーム運営に反映させている。また、家族のホームに対する理解は深いものがあり、信頼の絆で結ばれている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は、その都度聞くように話し合い反映させている。	職員会議は毎月定期的で開催され、活発な意見交換が行われ、充実した会議となっている。管理者は、職員と個別に話したり、会議の後に食事会をする等、お互いに理解し合える関係を築いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいを感じられ、いきいきと勤務できるように努力している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に当たっては、性別・年齢・学歴など関係なく採用している。又、得意とする能力を十分に發揮できるように配慮している。	職員のロッカーや休憩室を用意し、できるだけ休憩時間をとるようにするなど、リフレッシュして仕事ができる環境を整えている。職員の募集、採用にあたっては年齢、性別の制限はない。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	事業所内研修を行う等、日頃から人権尊重に対する指導、啓発に取り組んでいる。	人権研修を、内部、外部で受講し、利用者の人権を尊重するために何をすべきかを話し合い、確認し合うことで、職員は利用者の人権を尊重し、啓発活動に繋げている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の研修に可能な限り参加するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所への訪問やイベント等への参加を行い、良い点は取り入れサービスの質の向上につなげている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談はもちろん、必要に応じて体験入居などを行い、安心・安全を感じて頂けるように心掛けている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時十分な時間を取り、困っている事、不安などを聴き、解決・改善に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の聴き取りから、必要とされている支援を見極める様に努力している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員という関係ではなく、日々の生活を一緒に過ごしている家族のような一員として、喜怒哀楽を共にする関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が生甲斐を感じながら生活して頂けるように、家族とは支援の方法を一緒に考えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族はもちろん、親戚、友人の方など面会に来て頂いている。利用者の方がいつでも連絡(電話・手紙・メール)が取れる様に支援している。	ホームに、親戚、友人、知人などの訪問が多く、管理者と職員は、人が尋ね易い雰囲気作りに取り組んでいる。また、家族と協力しながら馴染みの美容院へ同行したり、年賀状をだすことなど、利用者のこれまでの関係継続のための支援をしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の活動と一緒に行動中で、共通の話題、家事、レクリエーションを行いながら関わり合えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援を行える体制を整えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話等で意向の確認を行い把握に努めている。又、困難な場合は家族からアドバイスをもらい、本人本位に検討している。	職員は利用者に寄り添い、会話や表情などから利用者の食べたい物、したいこと、行きたい所など把握し、家族と相談しながら思いや意向を支援できるよう努めている。また、意向の把握の困難な利用者には、過去の履歴やベテラン職員や家族に相談しながら支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境は、本人、家族、担当ケアマネから情報収集しケアに繋げている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム、体調の変化等記録に残す等、現状を総合的に把握できるよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医師の意見を反映させケアマネを中心に、全職員で意見の交換をおこないながら作成している。	介護計画は、利用者や家族の希望を聴きながら3ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態に変化があった場合は、家族や医師と連絡をとりながら、その都度見直し対応している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・バイタルチェック表に日々の生活や気づきを記入している。職員間で情報を共有しケアプランに反映させている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに出来るだけ応えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々な地域資源を活用しながら、本人が楽しく生活して頂けるように支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に応じて適切な医療が受けられるように支援している。	母体医療法人による24時間365日の医療連携体制で、利用者の健康管理は万全なものがある。また、利用者、家族の希望に応じて、かかりつけ医の受診支援をしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、併設病院より看護師が訪問し、一人一人の健康チェックや、ケアに繋がるアドバイスをもらっている。又、いつでも必要に応じて相談できる体制になっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医とは密に連絡を取り、利用者に向けた対応が取れる体制にしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、本人・家族に事業所で出来ることを説明し方針を出してもらっている。	看取りの指針を作成し、入居時に、利用者や家族に詳しく説明し、理解を得ている。また、ホームで支援出来ること、出来ないことを明示し、利用者の状態に応じて、繰り返し話し合い、意思確認を行い、家族を含め関係者で方針を共有し、利用者の重度化に向けた支援をしている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内研修にて訓練等を実施、又、マニュアルを作成しすぐに対応出来る様にしている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施。又、災害時には併設の病院・老健より応援が駆けつける体制をとっている。	消防署の協力を得て、年2回昼夜を想定した避難訓練を実施している。また、非常食や飲料水は隣接施設の厨房で保管されている。今後は、非常災害時に地域住民の協力体制を確立することを目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の誇りやプライバシーを損ねる事のない接遇マナーを心掛けている。又、月2回接遇委員による接遇チェックを行いマナー向上に努めている。	法人全体で接遇委員会による研修を行い、利用者のプライバシーや尊厳を守るために何をすべきかを学び、検証することで再確認し、実践している。また、個人情報関係の資料は、人目につかない場所に保管されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活を自己決定にて生活して頂けるように、本人の意向を確認し支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人のペースに合った生活をして頂いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	併設老健で月4回移動理美容が開かれる為、希望により利用されている。又、馴染みの理美容室へも希望があれば行けるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けを、出来る方と一緒にしている。	食事は利用者が一番の楽しみであり、利用者と職員は、同じテーブルで同じ食事をおしゃべりしながら楽しそうに一緒に食べ、家族のような和やかな光景である。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設老健の管理栄養士が食事を管理し、食事量・水分量はチェック表を使い把握している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に合わせた介助を行い口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使いパターン把握に努めている。出来る限りトイレでの排泄を心掛けている。	職員は、排泄チェック表を活用し、利用者の排泄パターンを把握し、さりげない声かけや誘導でトイレの自立に向けた支援をしている。また、紙おむつから布パンツになった方もいて、利用者の自信回復に繋がっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然排便を心掛け、飲食物の工夫を行うが、改善ない場合は下剤等も使用している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人ゆっくりと時間を取り、ゆったりと入浴して頂いている。	入浴は、基本的には1日おきであるが、利用者のその日の状態に応じて、柔軟に対応している。また、入浴を拒まれる方に対しては、職員を交代したり、環境を変えてみたり、時間をおいたりしながら支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めておらず、それぞれ好みの時間に休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明を個々にファイリングし、いつでも確認できるようにしている。又、服薬による体調の変化を観察し、NsやDrへ報告している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の残存能力に合わせた作業を行って頂いている。又、飲酒・喫煙を希望される方もあり支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望に副えるように支援している。	買い物、ドライブ、外食、園芸など、利用者の行きたい所、したい事を出来るだけ支援できるよう頑張っている。誕生日の外食は、利用者大変喜ばれている。また、家族と相談し、協力を頂きながらの外出もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の力に合わせ、自己管理・事務所での管理を行っている。使用される場合は本人の希望に副えるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、電話をかける支援を行っている。手紙・メール等も必要に応じて援助している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるように装飾を工夫している。又、室内の温度は快適に過ごせるように調整している。	広く明るく開放的なリビングから眺める田園風景と、中庭のコスモス、ひまわりの花々は、いつまでも眺めていたい風景である。広いリビングにはソファがあちこちに置かれ、利用者は思い思いの場所に腰かけ、利用者同士、または職員と談笑しながら居心地よく過ごしている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は、一人一人、思い思いの場所で過ごされ、他入居者の方と話をしたり手芸など作業をされている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り本人が使いなれた馴染みのある物を持参して頂いている。	居室は、利用者が昔から使っていたもの、馴染みの筆筒、仏壇など、家族と相談しながら持ち込んでもらい、出来るだけ穏やかに居心地よく過ごせるよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所はバリアフリーで、個々の力に合わせ自立した生活が送れるように、その都度工夫している。		